



「パンダに頻りに会いに来てくれるお客様もいて、中国に戻った和歌山生まれのパンダたちの様子を教えてくれる方もいらっしゃいます」とブリーディングセンター前の品川さん。



①清掃も重要な仕事だが、その際に排泄物を目視し、体の調子を確認する。後ろで竹を食べているのは結浜。②朝と昼、そして夕方に竹を与えるが、グルメなパンダは美味しい部分だけを食べて、他は残すこともあり、様子を見て補充することもあるという。③これは永明が好きな竹。この枝の茶色さと葉の緑具合がお気に入りだという。④パンダは群れで生活をしたいため、アドベンチャーワールドでは1歳を過ぎた頃に親から離れ、別々の運動場で過ごしている。(以上全てブリーディングセンター)⑤希少動物の繁殖・育成を目的とした希少動物繁殖センター「PANDA LOVE」。

現在のパンダファミリー

①永明(えいめい)オス/1994年9月6日に来園。現在27歳のパンダファミリーのお父さん。②良浜(らうひん)メス/2000年生まれ。永明との間に9頭の子供を産み育てた、子育て上手なお母さん。③桜浜(おうひん)メス/2014年生まれ。④桃浜(とうひん)メス/2014年生まれ。桜浜の双子の妹。⑤結浜(ゆいひん)メス/2016年生まれ。頭部のとんがりヘアがチャームポイント。⑥彩浜(さいひん)メス/2018年8月14日生まれ。アドベンチャーワールドで最も小さく生まれたパンダ(出生時:75g)。



誰もが愛するパンダたちの未来も守りたい。

しながわ ゆか
ジャイアントパンダ飼育員 ● 品川友花

日本一のパンダファミリーが暮らす白浜のアドベンチャーワールド。父パンダの永明は1994年に来園して以来、梅および良浜との間に、合わせて15頭の子供をもうけた偉大なお父さん。現在でもアドベンチャーワールドの施設「パンダラブ」では桜浜と桃浜、彩浜が、ブリーディングセンターでは永明と良浜、結浜の合計6頭が暮らし、その愛くるしい姿をたつぷりと見ることが出来る。

仙台出身の品川友花さんは、パンダ飼育員のひとり。「どうしても動物と関わる仕事がしたくて、通っていた大学を中退し、当園内にある専門学校で学んだ後、入社しました。当初はレッサーパンダやリスザルの飼育を担当していましたが、2016年からパンダの飼育スタッフの一員になりました」と品川さん。パンダと人間、お互いに会話はできないので、スタッフが異変などを素早く察知しなければならぬ。そこで最も重要となるのが行動観察だという。部屋の掃除、おやつや竹を与える時はもちろん、夜中の寝ている状況などもビデオで確認し、交代スタッフと情報交換を欠かさない。そういったきめ細やかな対応が、日本一のパンダファミリーを支えてきた。

またパンダは結構グルメで、竹の美味しい状態を分かっているという。「春は栄養がたっぷりなタケノコ、夏は幹が、そして秋は葉っぱが美味しいようです(笑)。

アドベンチャーワールド
住所/西牟婁郡白浜町堅田2399
電話/0570-06-4481
<https://www.aws-s.com/>

「パンダの性格はそれぞれ異なりますが、当パークで誕生したオスは永明のように穏やかで優しく、メスは良浜のように気が強い傾向がありますね(笑)。絶滅の危機に瀕している希少な動物であるパンダ。飼育には可愛いだけでなく、その未来を守るといった大きな責任も伴い、常に緊張感をもって接しています」。



多くの動物達が自由に暮らす、テーマパーク。

トリップアドバイザー「日本の動物園ランキング2019」で全国2位にランクインした、和歌山屈指のテーマパーク。ジャイアントパンダの飼育展示から、動物たちが自由に歩くサファリ、イルカやアシカのライブが楽しめるゾーンなど施設は数々。

今年10月、アメリカの赤ちゃんが誕生したよ!

